

授業づくり講座 in 安芸市立安芸中学校



他教科のレポートも掲載中！
HPをご参照ください。
発行:令和3年12月 東部教育事務所



国語科コンセプト

- ▶ 資質・能力を育成する単元づくり ～学習指導要領の趣旨理解～
- ▶ 授業力の向上 ～教材分析と授業省察～
- ▶ 人のつながり、学びの高まりの構築 ～他者との交流から学びの質を高める講座～

第2回授業研究会
11月12日

▶ 授業力の向上 ～教材分析と授業省察～

★協議の視点 本時で育成したい力（資質・能力）が付いたか。

教材研究会を受けて

- 場に応じたスピーチにするために、スピーチをする目的や意図について考える時間を当初の計画よりも増やすとともに、スピーチメモの様式を変更した。
- 単元目標に基づいた個人のめあてを設定させ、そのめあてに沿って個々のスピーチをより良いものにしていく学習展開とした。
- 単元後のより良くなった姿を生徒自身が認識することで、学習の意味や目的がより明確になるという意見を受け、自己のスピーチの変容が実感できるよう、単元のはじめと単元末のスピーチの動画とを見比べ、自己のスピーチの変容から学びを実感させる計画とした。また、単元末の振り返りで、単元を通して学んだ「表現の工夫」を生かせる場面を設定した。



授業者 西岡 佳也 教諭

生徒インタビューより 本時や単元における思考や学びの変容について、参観者が生徒にインタビューをしました。

- Q. 今日の授業でどんな力が付いたか？
- A 1. スピーチをする場を意識することで、自分のスピーチの改善点が見付かった。聞き手に伝わる具体的なスピーチとなるように、内容や表現などについて考えることができた。
- A 2. 相手を意識して誰が聞いても分かりやすいスピーチとなるよう、自分で直したり、友達のスピーチに対して助言したりする力が付いた。撮影した動画を見るのは自分のスピーチを振り返るのに役立った。
- A 3. 相手に応じて、言葉を選び、話をする力が付いた。
- Q. 授業で困ったこと、難しかったことは？
- A 4. スピーチを行う実際の場を想像することが難しかった。

提案授業について

単元目標

- ・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。〔知識及び技能〕(1)エ
- ・場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ウ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

単元名 職場体験学習について、場に応じたスピーチをしよう ～場の状況に応じて、表現を工夫して話す～

教材名 「場面に応じて話そう 条件スピーチ」 『新しい国語 3』東京書籍

言語活動 職場体験学習について、場に応じたスピーチをしよう ～場の状況に応じて、表現を工夫して話す～

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)ア)

第2回教材研究会
8月26日

▶ 資質・能力を育成する単元づくり ～学習指導要領の趣旨理解～

★協議の視点 単元の指導と評価について
指導と評価が、生徒の思考の流れに沿い、資質・能力が身に付く計画となっているか。

グループ協議より

◇1セット目の単元と比べて場の設定が明確で、生徒が取り組みやすい単元となっている。

◆最初のスピーチからどのように変わったのかという変化を見取り、評価を行えるよう単元の流れを工夫する必要がある。また、その変化について、生徒自身も自分の成長を実感できるようにするとよい。

◆表現を工夫することができている姿をもっと具体的にした評価規準を設定するとよい。

講師講話より

国語科の授業では

- ★国語好きの生徒を育てる。教科内容を好きにさせる。
 - ・「読むこと」や「書くこと」が楽しいという生徒を育てる。
 - ・学校を卒業してから「生きる(生きて働く)」力を育てる。
 - ・本単元であるならば、「人前でしゃべるのっておもしろい」と思える生徒を育てる。

東京女子体育大学
田中 洋一 教授

主体的・対話的で深い学びについて

★「主体的・対話的で深い学び」を設定することが目標ではなく、これらを通じて生徒の学力を高めることが目標である。本単元ならば、生徒自身がスピーチについて自分で考えて工夫することができるようにする。授業がそういう流れになっているかを常に検証することが大事である。

「話すこと・聞くこと」の指導について

- ★相手・目的・場を明確にすることで、生徒がより思考するようになり、思考力が高まる。
- ★伝え方の指導においては、実践的に体験させ、生徒自身に実感させることが大切である。
- ★録画・録音などICTを効果的に活用し、生徒の振り返りを助ける工夫を行う。

「基幹教科」としての責任

★国語科で基本的な言語活動を体験させると同時に、大事な技術を教える。何をどのように教えたかを他教科の先生に発信し、他教科で実践してもらう。

グループ協議より

- ◇個人でめあてを設定し、それをグループで共有して、めあての達成に向けてスピーチの改善を図る展開は効果的であった。
- ◇生徒の思考をつなぐ意図的な指名ができていた。
- ◇生徒の思考を可視化できるようワークシートが工夫されていた。
- ◆個人のめあては、個々の進捗に応じた目標設定ができて良い。しかし、めあての内容が育成を目指す資質・能力に対応していない生徒もいたため、めあてを設定する際に、個別の支援が必要である。
- ◆互いのスピーチを聞き、助言を行う際、「話し方」、「表現の工夫」、「言葉遣い」、「内容」などの役割を分けてはどうか。
- ◆スピーチ動画の撮影の仕方に工夫が必要であった。互いのスピーチを聞くことに集中できるよう、各グループ1台のタブレットPCで撮影したほうがよかったのではないか。
- ◆場の状況を可能な限り再現させながらスピーチをさせると、もっと具体的な助言ができたのではないか。

▶ 人とのつながり、学びの高まりの構築 ～他者との交流から学びの質を高める講座～

リフレクションシートより

- * 生徒の実態や課題をしっかりと把握した上で、指導計画を立てることの重要性を再確認できた。また、評価の在り方について不安・疑問があったが、今回の講座で少し自分の中で整理することができた。
- * 授業での見取りや全国学調の結果などから生徒の実態を分析し、授業実践につなげることが重要であると感じた。「おおむね満足できる」状況の生徒の姿をより具体的なものにすることで、評価する場面や評価方法等が明確になるということを改めて学ぶことができた。
- * 「生徒は自然に主体的にはならない。」という言葉にハッとさせられた。生徒が学ぶ楽しさや意義を実感できる授業を展開するために、生徒の実態をしっかりと捉え、実態に即した単元構想をしていきたい。
- * 教材研究の際には、生徒の言語活動の具体的な姿をイメージしながら、まずは教員が言語活動を行い、明確な指導につなげていきたい。